

第12回認知症ケア学会大会に参加して思うこと 稲田秀樹

かまくら認知症ネットワーク代表理事
ケアサロンさくら 施設長

9月24、25日の両日、第12回「日本認知症ケア学会大会」(主催:日本認知症ケア学会、会場パシフィコ横浜)に参加した。大会では認知症の人の生活の質を高めるための様々な報告や講演、シンポジウムなどが行われた。

『疾患別にみたBPSD(認知症の人が表す行動・心理症状)の特徴とケア』をテーマにした午前のシンポジウムでは、各シンポジストによる報告が行われた。最初に「アルツハイマー型認知症におけるBPSDのケア」のテーマで認知症介護研究・研修東京センターの永田久美子氏が報告。抗精神病薬により体が硬直するなどの副作用を起こした若年性認知症の方のケースを取り上げた。報告のなかで永田氏は症状の背景の全体像をしっかりと見極めながら、家族と介護事業者、主治医がしっかりと連携して本人を支援し、副作用による症状から脱却した鎌倉市のケース(アルツハイマー型認知症・かまくら認知症ネットワーク理事の方の妻の事例)を紹介し、認知症の人の内面に起きている様々な支障を取り除く支援が重要と話した。このケースは私も支援者の一人として関わっており、取り組み当時のことを思い出しながら話を聞かせていただいた。

横浜市立大学附属市民総合医療センターの小田原俊成医師からは、診断が難しいとされるレビー小体型認知症の診断基準について、病気の主な症状とされる幻視、パーキンソン症状、認知機能の動揺性(良いときと悪いときの差が激しいこと)のうち、2つが認められればレビー小体型認知症と診断できるとの説明があった。そのうえで小田原医師はレビー小体型認知症の患者は抗精神病薬の服用により重篤な副作用の起きる可能性が高いことをあげて注意をうながした。

岡山大学大学院・きのこエスパワー病院の横田修医師は、前頭側頭葉変性症(FTLD・ピック病)のBPSDのケアについて、夜間以外は施設をしない開放型の施設で過ごしているFTLD患者の日常をスライドで紹介した。報告のなかで横田医師は、「小規模で家庭的な環境のなかでの個別ケアを受けながら、それぞれが自分のペースで暮らしている」と話し、薬に頼らず、各人各様の生活パターンを尊重し大切にすることで落ち着いて過ごすことができると語っていた。自由で開放された空間で入所者たちは、トラブルを起こす訳でもなく過ごしていた。

午前のシンポジウムの報告を聞いて、医療の質と介護の質の双方が問われていると感じた。午後のシンポジウムは「地域包括ケアとは何か」というテーマだった。地域包括ケアを目指した各地の取り組みが紹介された。なかでも福岡県大牟田市の取り組みが印象に残ったが、大牟田市については、以前現地を視察したときの資料なども合わせて、次号にて報告します。



次号予告

☆5回「かまくら散歩」～谷戸の秋を味わう～

10月22日(土)認知症の人と家族、市民、介護の専門職らが集い交流しながら散歩を楽しみました。その詳細をお伝えします。

☆鎌倉市認知症地域支援フォーラム 直前レポート

平成24年1月28日に行われる認知症地域支援フォーラムに協力しています。フォーラム開催直前レポートを掲載します!

11月の予定		
11月7日(月)	認知症フォーラム会議	福祉センター
11月16日(水)	周知啓発等検討会	NPOセンター
11月19日(土)	認知症入門講座	NPOセンター
11月22日(火)	運営会議	NPOセンター
11月24日(木)	認知症フォーラム会議	福祉センター
11月26日(土)	認知症相談会	今泉町内会館

題字について
会報発行に当たり題字を当会会員で若年性認知症の古川さんのご子息(知的障害のある茂明君)にお願いしました。お陰様で力強く明るい紙面ができました。(稲田)

入門講座のご案内 『認知症のケアのコツ教えます』

経験豊かな講師が症状の背景や介護のポイントについて、実際の事例を交えながら分かりやすく解説します。



講師プロフィール

稲田秀樹 かまくら認知症ネットワーク代表理事、ケアサロンさくら施設長、市内外で数多く認知症研修の講師を務める、現場での実践を踏まえた分かりやすい解説で評判!

問合せ TEL 0467-47-6685 (事務局)

日時: 11月19日(土) 13:30~15:30
場所: NPOセンター鎌倉 2階会議室
定員: 30名(先着順) 受講対象: 介護家族、介護職員等
講師: 稲田秀樹(かまくら認知症ネットワーク代表理事)
受講料: 会員無料。非会員は、500円
主催: (社)かまくら認知症ネットワーク
申込み: 氏名、住所、連絡先、職種(介護職員、家族、市民等)を明記しFAXにてお申し込みください。
FAX: 0467-39-5490

一般社団法人



創刊号

かまくら 認知症 ネットワーク

題字 古川茂明

- 会報(隔月刊)
- 2011年11月1日発行
- 編集発行人
一般社団法人かまくら認知症ネットワーク
〒247-0055 鎌倉市大船1-22-2-402号
- TEL0467-47-6685
- 郵便振替
00240-8-140587
- 編集責任者 稲田秀樹

ごあいさつ

代表理事 稲田秀樹

一般社団法人 かまくら認知症ネットワークの設立にあたり、かまくら市内外を問わず、介護福祉医療関係者の方や市民の方々からたくさんの応援のお言葉を頂きました。この場をお借りしてあらためてお礼を申し上げます。さて、認知症介護を巡る状況にはまだまだ多くの課題があると実感しています。認知症の問題は当事者や介護の関係者だけでは解決できないことが多く、様々な立場の人たちが肩を並べて考え、ともに汗を流すことから始める必要を感じています。家族や友人、近隣の方ももし認知症になっても、さりげなく手を差し伸べられる町でありたいと思います。まずは小さな歩みから始めましょう。困っている人がいたら共に考えましょう。人と人のつながりを大切にしながら、少しずつ新しいネットワークをつむいでいきましょう!

設立総会

平成23年8月28日(日)の午後、鎌倉市福祉センターにて、一般社団法人 かまくら認知症ネットワークの設立総会が行われました。設立総会冒頭、稲田代表理事より「認知症をめぐる課題は多いが、立場の違いを超えて支援の輪を広げて行くことが必要」とのお話がありました。

総会では一般社団法人の設立に至った経緯の説明のあと、事業計画案、予算案、年会費などの審議が行われ、それぞれ原案通り可決承認となりました。また、新法人の役員が紹介されると、会場から拍手が起こりました。新法人の理事のみなさんの立場は様々で、介護の専門職が3名、医師、民生委員、介護家族らの市民



3名(男性3人女性3人)で構成されていて、立場や職種を超えた組織の形になっています。

総会の後には、「被災地の支援活動から学ぶ」というテーマで、認知症介護研究・研修東京センターの永田久美子さんによる設立記念講演が行われました。認知症の人と家族を立場を超えて支援するネットワークの大切さを実感する一日となりました。(SA)

鎌倉市との協働事業

認知症相談事業(予約制)

介護福祉士やケアマネジャー等の専門職による相談となります。(社)かまくら認知症ネットワークが相談員を派遣しています

12月10日(土) 腰越学習センター 13:30~16:30 (11月15日~予約受付)	1月14日(土) 深沢学習センター 13:30~16:30 (12月15日~予約受付)
--	---

申し込み先: 鎌倉市役所 市民健康課
でんわ 0467-23-3000 内線 2678(受付 8:30~17:15)

入会ご希望の方へ

FAXで入会申込書希望と書いてお送り下さい
資料をお送りいたします。

FAX 0467-39-5490

一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク 事務局
[問合せ先 TEL 0467-47-6685]

会員種別 年会費

1. 個人正会員 3000円
 2. 個人賛助会員 2000円(一口以上)
 3. 団体賛助会員 2000円(一口以上)
- ※申込書送付後、年会費をお振り込みください。
郵便振込口座 00240-8-140587
口座名 一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク

設立記念講演

8月28日の午後、鎌倉市福祉センターに認知症介護研究・研修東京センターの永田久美子さんをお迎えして、「被災地の支援活動から学ぶこと」というテーマで、一般社団法人かまくら認知症ネットワークの設立記念講演が行われました。

講演では、宮城県気仙沼市での認知症支援の取り組みが紹介されました。気仙沼市では震災前から、行政、認知症サポート医、地域包括支援センター、介護関係者、介護家族らが立場を超えてチームを作り、地域に向いて認知症支援の輪を広げていたとのことでした。支援の輪には認知症サポーター養成講座を受講した高校生たちも、自分たちにできることをしようと考へて、マスコット人形を作るなどの協力をしたということでした。その後立場の違う人同士でチームを構成し、地域に向いて協力を呼びかけたところ、小中学校、自治会、商店、介護サービス事業所、医療機関、商工会議所、観光協会などへとネットワークの輪が広がって行ったということでした。そして震災当日の出来事がありました。ある高台にある高校では、高校生たちが自主的に近所の福祉施設へ向かい、認知症のお年寄りをおぶって安全な場所に避難させた。また高校生たちは、学



校に避難してきたお年寄りが寒さから身を守るように、カーテンや柔道着を渡したりしたということでした。

永田さんによれば、「災害時に限らず、認知症の人を地域で支えようというとき、地域にネットワークの輪を広げて行くことが必要」ということでした。そのような取り組みの事例として、静岡県富士宮市の取り組みなどの紹介がありました。

鎌倉市では、現在4人に1人以上が高齢者となっています。増加する認知症の人への対策を行政や介護事業者だけに任せるのではなく、立場の違う人たちが地域で、少しずつでも絆を深めてネットワークをつむぎながら、何かあったときにはアイデアを出し合い、支え合う取り組みを広げて行く必要があると強く感じた一日となりました。(IN)

認知症相談事業の相談員を務めて

10月8日(土)の午後、玉縄交流センターにて、鎌倉市との共同事業である市民対象の認知症相談が行われました。私は今回初めて相談員として参加させていただきました。相談は2件あり、それぞれに課題を抱えて相談にみえた方でした。2件の方ともに、すでにサービスを利用されていましたが、ご本人の状態をどう把握し、理解したらいいのか、ご家族自身に戸惑いがある様子でした。現場の立場から、いろいろとアドバイスしたいと思う場面もありましたが、まずは家族の思いをしっかりと聞き取ることが最優先となりました。介護の現状をお聞きして、せっかくサービスを利用しながら、その機能を十分理解されておらず、サービスを活用しきれていない点がとても気になりました。このことはサービスを提供している側からのアプローチが足りていないことも示しています。より利用しやすい環境を介護事業者の私自身が考える機会にもなり大変勉強になりました。また、相談に来られた方々の切実な思い、家庭での介護の困難を受け止める中で、私のわずかな力でも役立つことができれば、援助者としてさらに経験を重ねてより適切な助言や援助が可能になると思いました。(YM)



地域の動き 「若年期認知症家族・本人の集い」 認知症の人と家族の会神奈川県支部 横浜市旭区

若年期認知症は介護サービスの選択肢が少ないことや経済的問題など特有な課題があります。今回、認知症の人と家族の会神奈川県支部による『若年期認知症家族・本人のつどい』へ参加する機会を得て、9月25日(日)相鉄線鶴ヶ峰駅近くの会場に行ってきました。

会場では若年期認知症の家族による相談会が行われていました。ひとりずつ近況報告を行い、病気の進行への不安、生活面での苦労などの悩みを打ち明け、周りの家族はそれぞれの体験をもとに、コミュニケーション方法、薬の効果や副作用、福祉の制度とその申請方法などについて、具体的なアドバイ

スを行っていました。

参加している男性介護者からは、「この会に入って色々な情報を貰い助かった」「ここに来るのも勇気がいる。思い切って入ってもピリピリだった。でもそういう人ほど来てほしい」とそんな話を伺いました。また家族らが相談会を行っている間、本人たちはボランティアと一緒に別室で趣味活動などに参加していました。若年期の集いの問い合わせは、(社)「認知症の人と家族の会神奈川県支部 電話044-522-6801 まで(DK)



地域の動き アルツハイマーデイ かまくらりんどうの会 木場貞雅代表 鎌倉市

アルツハイマーデイのピラ配りはかまくらりんどうの会の恒例の行事ですが、当日台風の直撃を受けて中止となってしまいました。そこで今回代表の木場貞雅さんに家族の会についてお聞きしました。

Q. かまくらりんどうの会をひと言でいうと?

A. かまくらりんどうの会は認知症の方を抱えている人たちの集まりです。

Q. 会の目的は?

A. 認知症の理解を深めたり、介護方法や介護保険などの情報交換を行ない会員の福祉の向上を図ることを目的としています

Q. 活動内容を教えてくださいませんか?

A. 認知症電話相談の「りんどうテレホン」、仲間同士で思いっきり話す「サポート会」、本人と一緒に楽しむ「みんなでデイ」のほか毎月会報を発行しています。ホームページも充実していますので、ぜひご覧ください。

Q. 認知症の人や家族にひと言お願いします

A. 一人で悩まず、みんなで解決していきましょう。きっと方法は見つかります。

困ったときは「りんどうテレホン」毎月第1第3土曜、日曜13時~16時

☎0467-23-7830 まで電話下さい (IN)



地域の動き 「老いを楽しく(健康講座)」 みらいふる鎌倉 深沢支部 鎌倉市

9月25日(日)ミライフル鎌倉(老人クラブ)の深沢地区主催の健康講座「老いを楽しく」におじゃまさせていただきました。講師は稲田代表(かまくら認知症ネットワーク)で「認知症になっても地域で共に暮らしていくために」というテーマの話して、会場では50名ほどの方が参加していました。

講座の後、ミライフル鎌倉深沢地区代表の千葉さんに話を伺いました。この講座を企画した理由は「認知症は身近な問題」と思ったからだそうです。講座を聞いての感想は「認知症についてとてもわかり

やすく教えてくれた」「認知症は個人の問題と思っていたが、稲田さんの話を聞いて地域の課題だという認識が変わった」ということでした。また参加者の一人は、「講座を通じて地域のつながりの大切さを考える機会になり、これまであまり出ていなかった地域の催しにも積極的に参加してみよう」という気持ちになった」と感想を言ってくれました。(NA)

